

アブストラクトテーブル(抄録一覧表)

抄録番号	著者・年	Patient	Exposure	Outcome
1	Turkyilmazら・2006	85人の158部位	CT検査 OsseoCare電子モニタを使用した固定トルクの測定 OSSTELLを使用した共振周波数の測定	部位によるCT値(平均値)は657-912を示し、下顎臼歯部は上顎前歯部に比べて有意に低く、上顎前歯部が最も高く、上顎臼歯部が最も低かった。 男女では男性が、老若では老人のCT値が有意に高かった。 固定トルク値は34.9-42.2を示し、CT値と強い相関を示した。 CT値は共振周波数と相関を認め、同様に共振周波数は固定トルク値とも相関を認め
2	Dodsonら・2006	921人の2996部位	cohort研究 文献の検討	デンタルインプラントの1年生存率は、90.3-96.2%。 5年生存率は、上顎洞底挙上術症例では87.9%、すべてで91.2%。 予後因子として重要な項目は、喫煙、L&Zによる分類。他には、インプラント材料の長さ、サイズ、表面コーティング、抜歯後の期
3	Shapurianら・2006	219人の患者	CT検査 デモグラフィックデータ	多くの臨床家は、骨質、歯槽頂の高さ、重要解剖学的構造物との関係の評価するためにCTを使用しているが、CT値では骨質を評価できていないことに留意すべきであ
4	Stoppieら・2006	13体のご遺体	CT検査 DXA Micro-CT 超音波強度測定	CTは骨の強度をよく表すツールであるが、骨皮質が厚い場合は他の要因とあまり相関せず、薄い骨皮質の場合よく相関する
5	Handerlsmanら・2006		Guideline	デンタルインプラント植立に必要な画像診断は、フルマウス根尖投影法、三次元CTスキャン、通常のCTスキャンの3種が候補となる。 CTスキャンからのMPR画像でわかること 骨の吸収、歯槽頂部の吸収、距離の計測、などが可能 骨密度:L&ZのA-Eの5型に分類
6	Miyamotoら・2005	50人の患者の59部位	CT検査からのMPR画像 共振周波数解析 インプラント体長の測定	インプラントの安定度の指標である共振周波数と、CT検査からのMPR画像によって測定された骨皮質厚さの間には、強い正の相関関係があった。同様に、共振周波数とインプラント体の長さの間には負の相関関係を認めた。
7	Ikumiら・2005	13人の患者の56部位	CT検査 OsseoCare電子モニタを使用した固定トルクの測定	部位によるCT値は208-1099を示し、固定トルク値と強い相関を示した。 CT値は共振周波数と相関を認め、同様に共振周波数は固定トルク値とも相関を認めた
8	Herrmannら・2005	487個のインプラント	患者背景などの調査 パノラマエックス線検査	インプラントの成功/不成功を決める因子として、 上顎/下顎(有意な相関)、骨質(有意な強い相関)、骨外形(有意な強い相関)、骨質と骨外形の組合せ(有意な強い相関)、治療のプロトコル(有意な相関)、の5因子が挙げられた

9	Shahlaieら・2003	9体のご遺体の62部位	通常のCT検査からのMPR画像からのCT値計測 L&Zの骨質分類	CT値は、64～1265に分布した。部位による平均CT値は、383～672であった。 CT値はL&Zの骨質分類と相関はあったが、1型は2例と少なく、2型と3型ではCT値のとり範囲が広がった。4型においては、CT値が有意に低かった。
10	Homolkaら・2002	5体のご遺体	CT検査 トルク検査	$\text{トルク} = (0.0055 \times \text{BMD} + 0.73)2$ BMD指数とトルクには強い相関関係を認め
11	Lettryら・2003	5体のご遺体	CT検査 ヤング率測定	これまでの報告に比べて、下顎骨のヤング率は低かった。 CT値とヤング率の相関は低かった
12	Strietzelら・2002	22人の患者の22部位	エックス線検査	手術前の骨質分類は、インプラント埋入後6ヶ月時点のインプラント周囲の骨レベルと相関していた。 L&Z分類における2型は3型より骨欠損が少なかった。
13	Chuangら・2002	677名の患者の2349部位	cohort研究 文献の検討	デンタルインプラントの成功／失敗に関わる因子は、喫煙、インプラント長、L&Z分類、フィクスチャの埋入長さ、即時性であった。 特に、喫煙、即時性、L&Z分類が重要な因
14	Nortonら・2001	32人の患者	CT検査 L&Z分類	CT値とL&Z分類の骨質型には相関があり、CT値は部位にも強い相関があることが示された。 1型ではCT値は850以上を示し、2型3型では500～850を示し、4型では部位により0～500のものや、0未満のものも存在した。